

北海道高等学校定時制・通信制パワーアップ事業報告書 [令和5年度 (2023年度)]

| | | | |
|-----|-----------------|-----|------|
| 学校名 | 北海道帯広柏葉高等学校 (定) | 校長名 | 須藤克志 |
| 所在地 | 北海道帯広市東5条南1丁目1 | | |

(令和5年(2023年)5月1日現在)

| 学 年 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 合 計 | 教 員 数 (校長・教頭を除く) | | |
|-------|----|----|----|----|-----|---------------------|------|---|
| 生徒数 | 男 | 6 | 6 | 7 | 2 | 21 | 教 諭 | 7 |
| | 女 | 11 | 5 | 3 | 1 | 20 | 養護教諭 | 1 |
| | 計 | 17 | 11 | 10 | 3 | 41 | 合 計 | 8 |
| 学 級 数 | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 | | | |

| | | | |
|-----|---------|-----|--|
| 協力校 | (全・定・通) | 校長名 | |
| 協力校 | (全・定・通) | 校長名 | |

| | [実践研究課題] | [実践研究の実施内容] |
|----------------|---|--|
| 実践研究の実施概要 | ア 特別な教育的支援を必要とする生徒への指導の充実に資する取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な教育的支援を必要とする生徒の実態把握 ・ 科学的な根拠に基づく望ましい学習指導の在り方の共通認識による指導の工夫・改善 ・ 個別の教育支援計画を踏まえた、社会性の涵養に資する指導の工夫・改善 |
| 成 果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進校の視察を踏まえ、学習歴、特性、学力差等のある集団に対する指導と評価の在り方について、特に、主体的に学習に取り組む態度の観点から、自校における指導と評価の改善を図ることができた。 ・ 学習者評価及び授業者評価を活用して、学習や進路に関する生徒一人一人の意識や課題感を把握することにより、授業改善の視点や、キャリア教育におけるレディネスと指導の方向性が明確になった。 | |
| 実施上の課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 十勝管内では唯一の定時制であるため、特別な教育的支援を必要とする生徒の指導と評価等に係り、状況が類似している学校間の情報交換や教職員の合同研修の実施が困難である。 ・ 学習歴、特性、学力差等のある小人数の集団に対して、個別最適な学びを実現するための効果的なICTの活用が不十分である。 | |
| 事業実施による成果の普及状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市内3校、釧路管内1校の視察報告会において、多様な生徒集団におけるインクルーシブ教育の実現には、家庭や専門家と連携した実態把握と適切な生徒理解、望ましい観点別学習状況の評価と授業改善が不可欠であることを全教職員で確認し、意識改革を促すことができた。 | |
| その他特に記載すべき事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の取組を通して、本校定時制課程の教員（再任用・初任段階5名を含む8名の教員）が、一人一人の教職年数の違いはあっても、自ら課題意識を持って、指導の改善を図り成長し続けることが、チームとしての全体の力を底上げし、生徒の多様な課題の解決に向けてよりよい教育活動を行うことができるということを確認することができた。 | |